

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウエーブ

*Linking
your
dreams*

DECEMBER 2022

89

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

● スペシャルレポート

リンテックの装置開発

● LINTEC ESSAY

時代を映す鏡「季語」

夏井 いつき

第129期
(2023年3月期)
第2四半期
決算情報

証券コード: 7966



ながまきこ
中牧湖(長野県)
長野県北部の聖山高原県立公園内にある湖。冬を迎えると霧の水分が周囲のカラマツなどの木々に付着して凍結し、湖畔に真っ白い樹氷が立ち並び幻想的で美しい光景が見られる。

目次

- 2 連結業績推移
- 3 株主・投資家の皆様へ
代表取締役社長 服部 真
社長執行役員
- 4 スペシャルレポート
リンテックの装置開発
- 8 トピックス
- 9 2022年度 新聞広告シリーズ
- 10 LINTEC ESSAY
時代を映す鏡「季語」 夏井 いつき
- 12 アンケート結果のご報告
- 14 決算情報
- 16 セグメント情報
- 19 株式情報

※前連結会計年度において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第2四半期連結累計期間に係る連結経営成績の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

※当第1四半期連結会計期間において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る連結財政状態の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

(免責事項)

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

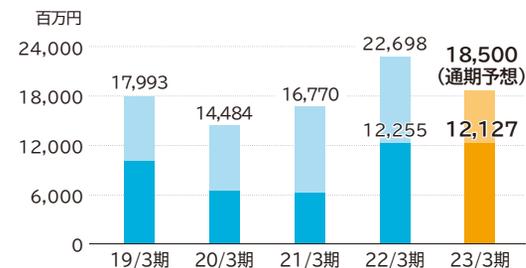
売上高



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



▶2023年3月期第2四半期連結累計期間(前年同期比)

売上高

144,422百万円 (14.9%増)

営業利益

9,776百万円 (16.6%減)

経常利益

12,127百万円 (1.0%減)

親会社株主に帰属する四半期純利益

8,791百万円 (0.3%減)

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績は、米国グループ会社での買収効果や円安の影響などによって売上高は大幅に増加しましたが、利益面ではパルプをはじめとする原燃料価格や物流コスト上昇の影響を大きく受け、上記のとおり増収減益となりました。

現在、徹底したコスト削減や価格転嫁に取り組んでいますが、第3四半期以降、さらなるコスト上昇に加えて電子・光学関



はっとり まこと
代表取締役社長
社長執行役員 **服部 真**

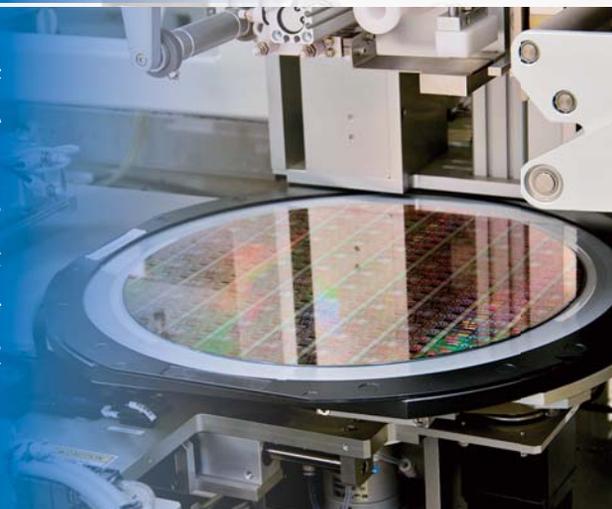
連製品の需要低迷が予想されることから、2023年3月期の通期連結業績予想を以下のとおり修正いたしました。売上高は過去最高となるものの、営業利益は前期実績を60億円下回る見通しです。しかしながら、2016年に買収して以来、営業赤字が続いていたマックタック・アメリカ社が黒字予想となるなど着実に成果も出てきており、引き続き全社一丸となって収益性の改善に努め、業績の向上を目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月期通期連結業績予想			2022年3月期
	当初予想	修正予想(増減率)	実績
売上高	2,850億円 ▶	2,920億円 (2.5%増)	2,568億36百万円
営業利益	215億円 ▶	155億円 (27.9%減)	215億84百万円
経常利益	215億円 ▶	185億円 (14.0%減)	226億98百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	155億円 ▶	135億円 (12.9%減)	166億41百万円

リンテックの装置開発

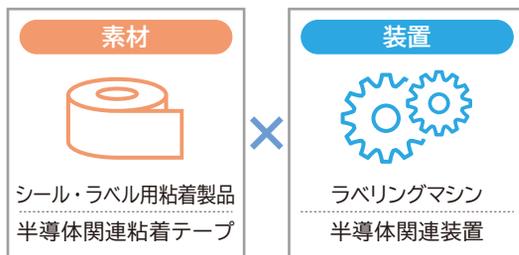
当社グループではシール・ラベル用粘着製品や半導体関連粘着テープだけでなく、それらを貼ったり剥がしたりする関連装置も開発・製造・販売しています。コロナ禍によるインターネット通販市場の拡大やデジタル化の進展などにより、物流センターや半導体の製造現場で使われるこれら装置の市場規模も年々拡大しています。今号では、リンテックの強みでもある装置開発についてご紹介します。



競争力の源泉となる「素材」と「装置」の総合提案力

切手のように水をつけて貼る包装用ガムテープの製造・販売で1927年に創業した当社は、1962年にガムテープで段ボール箱の封函^{ふうかん}などをする各種自動包装機の製造部門を設置し、テープと関連機器を組み合わせた事業展開を開始しました。その後、シール・ラベル用粘着製品が主力製品となってからは、1970年代に対象物にラベルを自動で貼り付けるラベリングマシンや、ラベル用粘着製品に印刷・抜き加工を施すラベル印刷機を開発。さらに1986年には、半導体製造工程で使用するウェハ固定用の特殊粘着テープを開発し、

関連装置と共に提案することで半導体製造工程に革新をもたらしました。このように素材メーカーとしての強みを生かした「素材」と「装置」の総合提案力が、リンテックの競争力の源泉となっています。

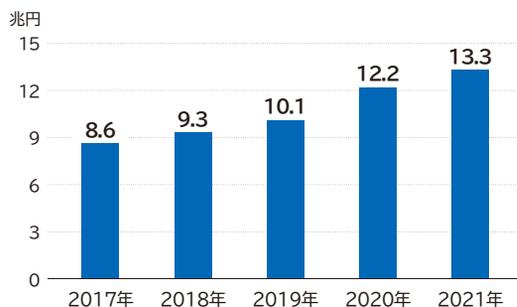


素材と装置を組み合わせた総合提案を展開

物流現場の自動化や省人化ニーズなどに対応するラベリングマシン

当社では宛名ラベルなどを効率良く発行・自動貼りするプリンタ搭載型のラベリングマシンを開発し、「L-VIS II」ブランドとして展開しているほか、顧客ごとのニーズに合わせて自動包装機やコンベヤーなども含む配送システムの提案も行っています。スマートフォンの普及や巣ごもり需要などを背景にインターネット通販市場が拡大しているのに対し、労働力人口の減少によって物流現場や製造現場では慢性的な人手不足が課題となっており、自動化や省人化に寄与する装置へのニーズが高まっています。今後もさらなる需要拡大が予想される中、当社では市場の動向をいち早く捉えた独自の装置開発を進め、ラベル素材とシステムを組み合わせた総合提案力の一層の強化を図っていきます。

国内電子商取引市場規模(物販系分野) 出所:経済産業省



コンベヤーで搬送される荷物にラベリングマシンで宛名ラベルを発行・貼付

PICK UP

省スペース・省電力の新型ラベリングマシン

ラベリングマシンの新機種として、当社は電動モーターで駆動する「L-VIS II EL」を開発し、9月より受注を開始しました。一般的にラベリングマシンはラベルを貼付するのにコンプレッサーと呼ばれる空気圧縮機が必要で、設置場所の制約や消費電力などの面で課題がありました。電動駆動によってコンプレッサーが不要な当機種は、小規模スペースにおいてもラベルの自動貼付環境を構築し、消費電力も削減。今後、中小の事業会社を含め、幅広い業界に向けて拡販していきます。

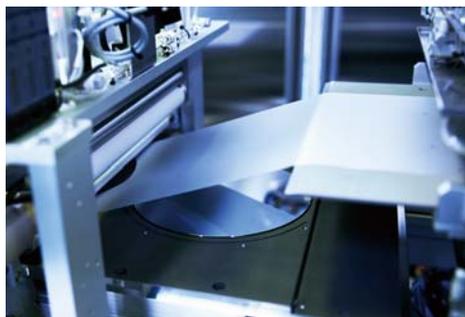
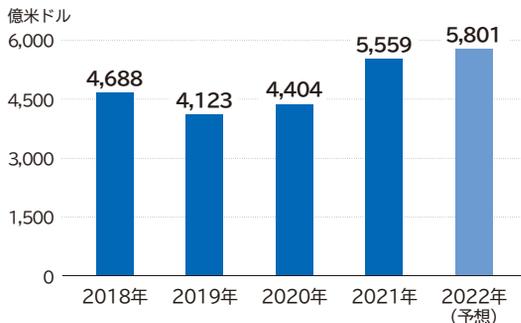


電動化により、配送現場の省スペース・省電力に貢献

テープと装置の総合提案で半導体業界における独自の地位を確立

当社グループでは半導体製造工程の中でも「後工程」と呼ばれるプロセスで使用される高機能粘着テープのほか、それらのテープを貼付・剥離するための装置なども開発・製造・販売しています。世界中に広がる拠点網を駆使して顧客ニーズを迅速に捉え、テープの特性を最大限に生かす装置開発を行うことで、業界における独自の地位を築いてきました。高速通信規格「5G」の普及やAI（人工知能）の需要増加、自動運転技術の進展など社会のデジタル化が進む中、半導体市場は拡大を続けています。足元では一時的な調整局面にあるものの、中長期的にはさらなる成長が予想されており、当社グループでも半導体関連粘着テープ・装置の生産体制の強化を図っています。

世界の半導体市場予測 出所：WSTS(世界半導体市場統計)



半導体の製造工程に不可欠な高品質なテープと装置を提供

PICK UP

世界の半導体製造現場で活躍するリンテックの装置

当社の半導体関連装置は、円盤状のウェハの裏面研削時に表面の回路面を保護するためのテープを貼る装置やそれを剥がす装置、さらにはウェハ切断時にチップが飛び散らないよう固定するためのテープを貼付する装置などが主力製品となっており、世界の半導体メーカー各社に納入しています。近年は生産性向上の観点から、人手を介さずにさまざまな工程を自動化することで、より効率的な生産ラインの構築に寄与する各種装置の開発を推進しています。



テープの貼付や剥離、紫外線照射などのさまざまな機能を搭載したマルチウェハマウンター

FOCUS

伊奈テクノロジーセンター

各種装置の設計・開発から生産までを手がける製造拠点です。不二紙工(株)の自動包装機製造部門を原点とし、1983年に埼玉県の蕨市から現在の所在地である同県の伊奈町に移転。2000年に現拠点名に改称しました。約240人のスタッフが在籍し、新機種の開発および生産能力の向上などに日々努めています。



INTERVIEW

装置需要の動向や今後の開発戦略などについて聞きました。

当社の装置開発における最大の強みは、各種テープやラベル素材の特性を知り尽くしたうえで装置開発ができること。そして国内外に常駐している技術スタッフがお客様の元に足を運び、ご要望や課題をうかがって個別に仕様を最適化した装置を提供できることにあります。コロナ禍を契機とした市場の変化を受け、当社の各種装置の売り上げは好調に推移していますが、その一方では部品の調達難に加え、半導体市場において一時的な在庫調整局面を迎えるなど、市場環境は不透明な状況が続いています。しかし、中長期的には装置需要は底堅いと見ており、今後のさらなる需要拡大を見据えた生産能力の増強が必須になってきます。

私は装置に搭載されるソフトウェアの開発業務に長く携わっていたこともあり、2020年7月に生産管理システムの刷新プロジェクトを立ち上げ、より効率的な生産や部品調達につながるシステムの構築を推進しています。また、技術スタッフの育成強化や増員にも尽力し、特に大きな成長が期待される半導体関連装置においては、2030年までに生産能力を現在の1.5倍以上に高めていく方針です。さらに既存事業の新製品のほか、新規事業に向けた装置開発にも注力していきたいと考えています。



生産本部 伊奈テクノロジーセンター
所長

おのでら くにゆき
小野寺 邦之

社会的課題の解決を目指し、新たな事業ブランドを立ち上げ

当社グループでは情報通信・エレクトロニクスやエネルギー、医療・介護などの分野を中心に、社会的課題の解決と会社の持続的成長を見据えた新事業の創出に取り組んでいます。今回、これら各テーマに関する技術開発と製品提案の強化を図るため、新ブランド「Welsurt」^{ウェルサート}を立ち上げました。同ブランドの製品開発においては他社や大学とも連携しつつ、当社独自のシート化技術や米国の研究開発拠点が持つ先端材料「カーボンナノチューブ（CNT）」の技術などを応用。電流を流すことで冷却・加熱といった温度制御が可能な薄膜材料のほか、導電性や耐久性、柔軟性に優れたCNTを活用したセンサーなどの実用化に向けた研究が進んでおり、「Welsurt」製品の早期市場投入を目指しています。

Wellbeing

ウェルビーイング：身体的、精神的、社会的に満たされた幸福な状態

Sustainable

サステナブル：持続可能性の実現

Smart

スマート：エレクトロニクス技術やネットワークを駆使した社会革新

Welsurt
Wellbeing, sustainable and smart

持続可能な社会の実現に向け、さまざまな課題の解決に貢献していきたいという思いを込めたブランド名



電子機器の熱制御に効果を発揮する薄膜軽量冷却シート

食品表示の“脱プラ”に貢献するラベル素材の新製品を発売

当社では特殊紙製造技術を生かし、プラスチックフィルムの代わりに耐水性のある紙を表面基材に使用したラベル素材を「PLALESS」^{プラレス}シリーズとして展開しています。この9月には日付や価格、バーコードなどの可変情報を印字する食品表示向けラベル素材を新たに追加しました。冷蔵・低温環境下などでの耐水性や粘着特性を備えるほか、製造時に有機溶剤を使わない粘着剤を採用した環境配慮設計となっています。今後、食品関連だけでなく、物流管理などの幅広い用途に向けて拡販を図っていきます。



プリンタの熱により発色させるダイレクトサーマル方式に対応したラベル素材です。結露しても剥がれにくく、また電子レンジで加熱しても印字面が黒く変色しません



2022年度 新聞広告シリーズ

リンテック みっけ!

あなたの身近なところに、リンテックテクノロジー。

持続可能な社会の実現に向けて、リンテックはさまざまな製品や技術を生み出しています。皆様の“暮らしの中で活躍するリンテック”を好奇心旺盛な黒猫と一緒にみつける広告シリーズです。

【掲載紙】

日本経済新聞、読賣新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報

リンテック
みっけ!

使用済みペットボトルを原料にした
資源の再利用を促進するラベル素材
リンテック株式会社

10月 掲載広告

リンテックは使用済みのペットボトルを原料にしたラベル素材の拡販に注力しています。最近ではペットボトル飲料の小型の商品表示ラベルとして採用されており、プラスチックの使用量削減につながるほか、再剥離タイプなので廃棄時の分別の手間も軽減します。



リンテック
みっけ!

お弁当容器などの脱プラに貢献する
油や水が染み出しにくい特殊な紙
リンテック株式会社

11月 掲載広告

近年、コンビニ業界では環境配慮の観点からプラスチック製のお弁当容器などを紙製に切り替える動きが出てきています。リンテックでは各種食品容器に使用できる油や水が染み出しにくい厚物タイプの耐油耐水紙の提案を強化し、脱プラニーズにお応えしていきます。



リンテック
みっけ!

照明器具などの消費電力を抑える
LEDの製造工程に欠かせないテープ
リンテック株式会社

12月 掲載広告

蛍光灯などと比べて長寿命で、省電力のLED照明。その光源となるLEDチップの製造工程において、発光層を形成した基板をチップに切断する際は強い粘着力で固定して、ピックアップ時には紫外線照射で粘着力を低下させるリンテックの高機能テープが活躍しています。

製品の詳細は右記の二次元コードから
ウェブサイトにて御覧いただけます。

DREAM FACTORY
www.lintec.co.jp/dream/ad



時代を映す鏡 「季語」

夏井 いつき

YouTubeを始めて二年半が過ぎた。

始めた一番の目的は、「定番の質問に対する答えをストックする」ことだ。俳句を始めた人たちは、皆、同じ疑問を持ち、同じ質問をしてくる。それに毎回答えていくのは、結構めんどくさいものなのだ。

例えば「着物持ってないんですけど、俳句できますか」「正座ができないけど、句会に行けますか」のような外側から固めてくるタイプの質問もあれば、「俳句って五七五でしたっけ」「季語ってなんですか」のような、そこからですか?!的な質問もある。こういう質問に対する答えをYouTube上にずらりと並べておけば、俳句を始めようという人たちにとっても便利だし、こちらとしてもメッチャ楽ちんなのだ。

その手の質問の中によくあるのが、「季語って、誰が、どうやって決めるのですか」というヤツだ。季語を選定する委員会があると思っ込んでいる人が案外多いこと

に、逆に私たちは驚く。

季語とは、誰かが決めるのではなく、自然発生的に生まれ、沢山の人がそれを季語として使い始め、さらに次代の歳時記編者が季語として載せる。つまり長い時間をかけて、ゆっくりと熟成されていくのが季語なのだ。

生まれてくる季語もあれば、時代と共に変わっていく季語もある。

かつて私は、『絶滅寸前季語辞典』という本を書いた。絶滅寸前季語保存委員会というものを勝手に立ち上げ、人々に忘れ去られ消えかけている季語に、もう一度光を当てる活動を始めたのだ。

その中で見つけた絶滅寸前季語の一つに「越冬資金」があった。豪雪地帯の雪掻き費用か、リストラ対象の給付金か、などと思ったが、なんのことはないボーナス、つまり年末賞与をこんなふうに呼んでいた時代があったのだ。



夏井 いつき (なついつき)

俳人。1957年生まれ、愛媛県出身、松山市在住。俳句集団「いつき組」組長、藍生俳句会会員。第8回俳壇賞、第72回日本放送協会放送文化賞、第4回種田山頭火賞受賞。俳句甲子園の創設にも携わる。帝塚山学院大学客員教授。松山市公式俳句サイト「俳句ポスト365」選者。2015年より初代俳都松山大使。句集『伊月集 鶴』（朝日出版社）、『夏井いつきの「今日から一句」』（第三文明社）、『瓢箪から人生』（小学館）など著書多数。

そういえば、「餅代」という言葉があったなと思出す。お正月の準備として暮れに餅を搗く。そのための代金として、雇い主が少額を包んでくれたものだ。各家庭で親族郎党、皆で集まり賑やかに餅を搗く風習は廃れた。餅はスーパーで買うもの。そうなれば「餅代」という心遣いも廃れていく。

「越冬資金」という切実で生々しい言葉は、事務用語っぽい「年末賞与」という呼び名に変わり、さらに「ボーナス」という外来語のほうが洒落てるなど流行りだす。経済復興と繁栄の昭和らしい選択であったに違いない。季語は時代と共に変遷していく、時代を映す鏡なのだ。

何もかもが物凄いスピードで変化していく現代。まさかコロナがここまで続くとは、まさか気候変動がここまでの猛威を振るうとは。そんな現状から、新しく生まれる季語も出てくるかもしれないぞ、と思う。

ここ数年の夏の暑さは半端ではない。天気予報のお兄さんが「明日の最高気温は三十五度」と言っても動じなくなっているし、「〇〇では四十度を超える命に危険のある暑さ」という予報に対しても、また記録更新かと聞き流す人も多いのではないか。

ひょっとすると夏のボーナス、「夏期賞与」という季語が「猛暑生存資金」と呼ばれる日がくるやもしれぬ。これでエアコン買って下さい。電気代の一部に充てて下さい。命に危険のある猛暑を、なんとか生き抜いて下さい。

そんな冗談が冗談で終わらない日がくるかもしれないことを、私たちはここ数年の経験から学んでいる。新しく生まれるかもしれない季語を予測することは、時代の方向を見守り、警鐘を鳴らす行為となり得るかもしれない。そんなことを夢想する、現在は2022年の冬である。

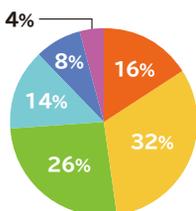
時の移り変わりと共に変化していく「季語」は時代を映す鏡のようなものであり、今後は例えば気候変動に関する新しい季語が誕生するのでは、と語る夏井さん。リンテックも将来を見据えながらリスクや機会を分析し、現在そして未来の社会的課題の解決に貢献するための経営を推進していきます。

読者アンケートへのご協力ありがとうございました

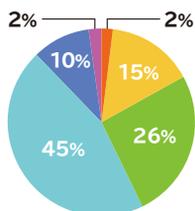
「LINTEC WAVE」第87号(2022年6月発行)で皆様にご協力をお願いしたアンケートでは過去最多となる1,394件のご回答を頂きました。アンケートの集計結果やお寄せいただいた貴重なご意見・ご要望を基に、今後も一層の経営強化やIR(投資家向け広報)活動の充実に努めてまいります。

回答者の属性

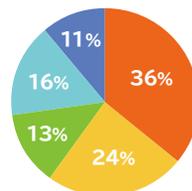
年齢



保有株数

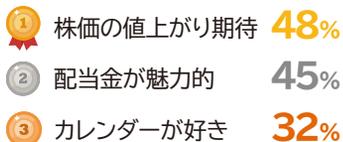


保有期間

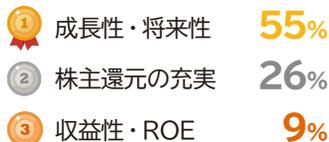


主な集計結果 上位ランキング

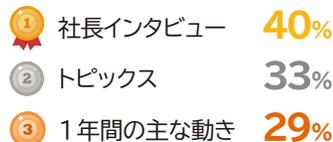
Q. 保有する理由として当てはまるものは?(複数回答)



Q. 長期保有する場合、株価以外に最も重視することは?



Q. 興味深かったページを教えてください。(複数回答)



編集担当者より

アンケートの集計結果では、約6割の方に5年以上の長期にわたって保有していただいています。保有理由の上位は昨年と同様の結果となり、長期保有に当たって重視することは「成長性・将来性」が過半数を占め、最も興味深かったページは「社長インタビュー」となりました。今後も株主の皆様の関心が高い情報、知りたい情報を掲載し、より興味を持って読んでいただける株主通信誌を目指してまいります。

読者の方から多く寄せられた声

他社の株主通信と比べて
分かりやすく、読みやすい

はがきによるアンケートは
ぜひ継続してほしい

環境に配慮した製品開発で社会に
貢献する会社になってほしい

毎年カレンダーを
楽しみにしている

円安の影響が
気になる

文字の大きさや文章量、
ページ数がちょうど良い

新製品・新技術の
記事を増やしてほしい

リンテックの製品がどんなところで
使われているかもっと知りたい

WAVEはホームページに掲載しているので、
冊子を印刷・郵送しなくてもよいのでは

増配を期待
している

表紙がきれいで
毎号楽しみ

知名度をもっと
高めてほしい

セグメント情報に営業利益の
増減要因を載せてほしい

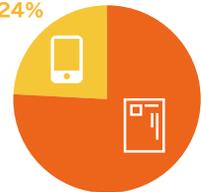
新聞広告の猫が
かわいい

編集担当者より

記述回答では、今回も「WAVE」については上記のとおり好意的な声が多数寄せられました。ご要望を受けて第88号からセグメント情報に営業利益の主な増減要因を記載するなど改善も図っています。また、コスト面などから冊子の送付は不要ではないかというご意見もありましたが、76%の方がはがきで回答していることなども勘案し、今後も冊子の送付とはがきによるアンケートは継続したいと考えています。

アンケート回答方法

インターネット
による回答
24%



はがきによる回答 76%

ご協力ありがとうございました

アンケートにご回答いただいた皆様には、当社高級印刷用紙「ニューアージュ CoC」を使用した2023年版当社オリジナルカレンダーをお送りさせていただきました。今回は、ヨーロッパ各地の印象的な風景を透明水彩ならではの色の重なりやしじみを生かし、彩り豊かに描いた古山 拓ふるやま たく氏の作品集です。



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第2四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	187,042	182,224
固定資産	130,625	120,640
① 資産合計	317,668	302,865
流動負債	70,475	72,382
固定負債	21,320	20,724
② 負債合計	91,796	93,107
③ 純資産合計	225,872	209,758
負債純資産合計	317,668	302,865

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
④ 売上高	144,422	125,640
売上総利益	33,809	33,147
販売費及び 一般管理費	24,032	21,418
⑤ 営業利益	9,776	11,729
経常利益	12,127	12,255
税金等調整前 四半期純利益	12,114	12,546
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,791	8,815
四半期包括利益	23,020	13,615

■ ポイント!

① 資産合計

自己株式の取得などにより「現金及び預金」が減少しましたが、米国での事業買収や調達コストの上昇により「棚卸資産」が大幅に増加したほか、成長分野への積極投資による「有形固定資産」の増加などにより、総資産は148億3百万円増加しました。

② 負債合計

「未払法人税等」の減少などにより、負債は13億11百万円減少しました。

③ 純資産合計

自己株式の取得による減少がありましたが、円安の進行による「為替換算調整勘定」の増加などにより、純資産は161億14百万円増加しました。

④ 売上高

米国での事業買収の効果などで印刷・情報材事業部門が大幅に増加したことなどにより、売上高は187億81百万円増加しました。

⑤ 営業利益

円安による増益効果はありましたが、原燃料価格や物流コスト上昇の影響を大きく受けたことなどにより、営業利益は19億52百万円減少しました。

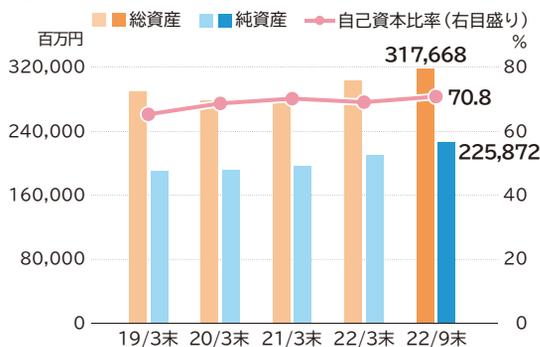
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益

営業利益は減少しましたが、円安の進行により為替差益が大幅に増加したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は24百万円の減少にとどまりました。

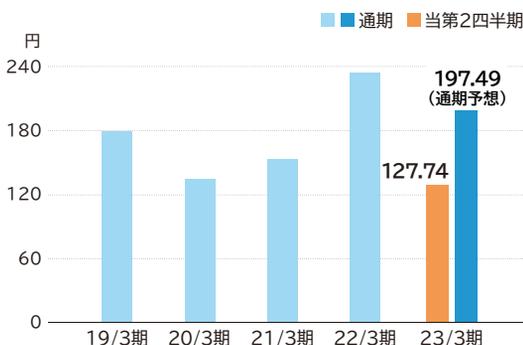
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	2,924	15,226
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,121	△7,331
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,482	△3,996
現金及び現金同等物の 四半期末残高	43,041	63,185

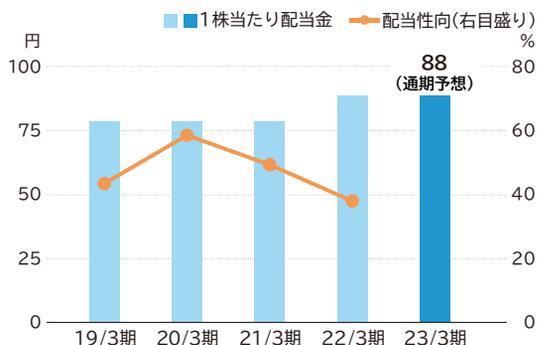
総資産・純資産・自己資本比率



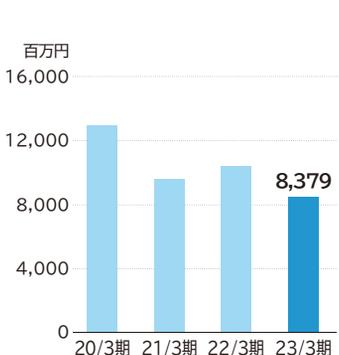
1株当たり四半期(当期)純利益



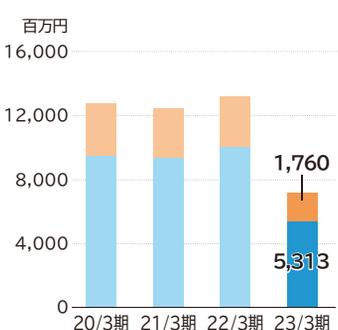
1株当たり配当金・配当性向



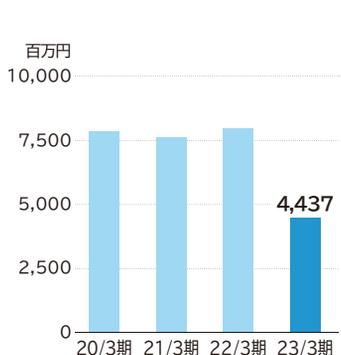
設備投資額



減価償却費 のれん償却額



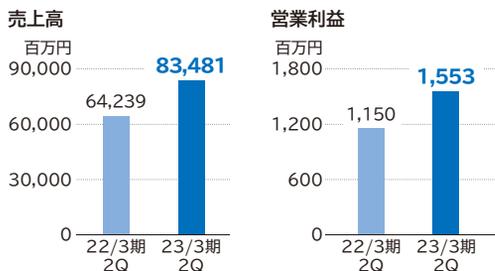
研究開発費



印刷材・産業工材関連 (前年同期比)

売上高 **834億81** 百万円 (30.0%増)

営業利益 **15億53** 百万円 (35.0%増)



印刷・情報材事業部門 (前年同期比)

売上高 **674億36** 百万円 (38.6%増)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム



産業工材事業部門 (前年同期比)

売上高 **160億45** 百万円 (2.9%増)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 印刷・情報材事業部門はシール・ラベル用粘着製品が国内では食品や飲料キャンペーン用などの需要は低調だったものの、各種環境配慮製品の新規採用が進んだほか、宅配・物流関連の需要が増加したことなどにより堅調に推移しました。海外では米国における買収効果もあり、大きく伸長しました。
- 産業工材事業部門は国内では自動車の減産影響を受けて自動車用粘着製品の需要が低調でしたが、海外ではアセアン地域を中心にウィンドーフィルムや自動車用粘着製品などが堅調に推移しました。
- セグメント営業利益は原燃料価格や物流コストが上昇したものの、米国子会社の損益が大幅に改善したこともあり、前年同期に比べ増加しました。

電子・光学関連 (前年同期比)

売上高 **441億92**百万円 (1.1%減)

営業利益 **87億47**百万円 (8.3%減)

売上高



営業利益



アドバンストマテリアルズ事業部門 (前年同期比)

売上高 **335億53**百万円 (2.0%増)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ



オプティカル材事業部門 (前年同期比)

売上高 **106億39**百万円 (9.6%減)

主要製品

- 偏光フィルム／粘着加工
- タッチパネル関連製品



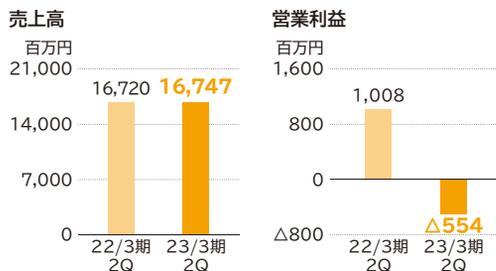
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- アドバンストマテリアルズ事業部門は積層セラミックコンデンサ関連テープがスマートフォン用などの需要低迷により低調に推移しましたが、半導体関連粘着テープや関連装置は堅調に推移しました。
- オプティカル材事業部門は車載用タッチパネル関連製品が伸長したものの、光学ディスプレイ関連粘着製品が大型テレビやスマートフォン用などの需要低迷の影響を大きく受けて低調に推移しました。
- セグメント営業利益は単体での生産設備の操業度低下の影響を受けたことなどもあり、前年同期に比べ減少しました。

洋紙・加工材関連 (前年同期比)

売上高 **167億47百万円** (0.2%増)

営業利益 **△5億54百万円** (－)



洋紙事業部門 (前年同期比)

売上高 **78億59百万円** (4.1%増)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙



加工材事業部門 (前年同期比)

売上高 **88億88百万円** (3.1%減)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 洋紙事業部門はカラー封筒用紙が前年同期並みとなったほか、耐油耐水紙がテイクアウト需要の増加などにより堅調に推移しました。
- 加工材事業部門はスポーツ・レジャー用品向けの炭素繊維複合材料用工程紙が堅調に推移しましたが、電子材料用剥離紙や光学関連製品用剥離フィルムが需要低迷の影響を受けて低調に推移しました。
- セグメント営業利益はパルプを中心とした原燃料価格上昇などの影響を大きく受け、営業損失となりました。

※ セグメント別の営業利益はセグメント間取引消去前の数値に基づいています。

株式情報 (2022年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式を除く)	68,359,137株
単元株式数	100株
株主数	7,580人

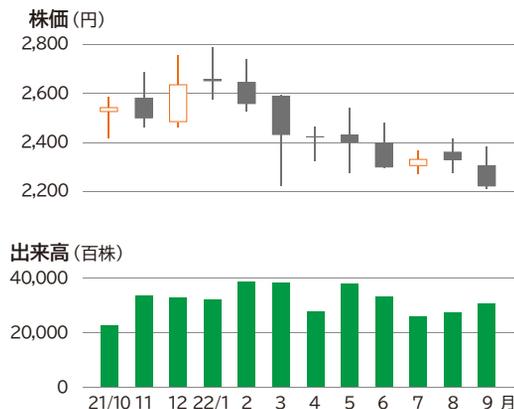
大株主の状況 (上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本製紙株式会社	21,293	31.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,038	10.29
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,893	5.69
全国共済農業協同組合連合会	2,522	3.68
庄司 たみ江	1,796	2.62
リンテック従業員持株会	1,181	1.72
株式会社かんぼ生命保険	1,180	1.72
塩飽 恵以子	1,043	1.52
BBH FOR UMB BK, NATL ASSOCIATION-GLOBAL ALPHA INTL SMALL CAP FUND LP	880	1.28
塩飽 一誉子	803	1.17

注1. 当社は自己株式8,329,603株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2021年10月~2022年9月)



IRメール配信サービスのお知らせ

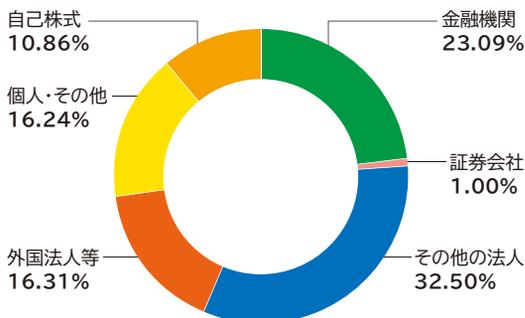
当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。配信をご希望の方は、当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。



スマートフォンなどでこの二次元コードを読み取ると、登録ページへ簡単にアクセスできます。

www.lintec.co.jp/ir/ir_mail

所有者別分布比率



会社概要 (2022年9月30日現在)

社名	リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)
本社設立	東京都板橋区本町23-23 1934年10月15日
資本金	233億5,598万1,761円
上場	東京証券取引所プライム市場
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結: 5,158人 単体: 2,628人 (2022年3月31日現在)
事業所	営業拠点: 東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点: 吾妻(群馬県)、熊谷・伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、 龍野・新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島・土居・新居浜(愛媛県) 研究拠点: 蕨・さいたま(埼玉県) 海外事務所: ハノイ(ベトナム)
連結子会社	国内: 3社 海外: 39社

株主メモ

定時株主総会	6月
配当基準日	期末: 3月31日 中間: 9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
・郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufg.jp/daikou
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
株主総会資料の電子提供制度開始に伴う書面交付請求に関するご案内	会社法改正に伴い、株主総会資料の電子提供制度が開始されました。引き続き書面での交付をご希望の場合は、2023年3月31日までにお手続きが終わるよう株主様の口座のある証券会社または株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお早めにお申し出ください。
法定公告掲載ホームページアドレス	www.lintec.co.jp/ir/stock/koukoku.html



リンテック株式会社 *Linking your dreams*

● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

発行 広報・IR室 2022年12月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754

社名の由来は、リンケージ(結合)とテクノロジー(技術)。ロゴマークは、地球を表す楕円にLINTEC・LINKAGE(結合)・LOYALTY(誠実)の三つの「L」で表現したウエーブ(波)を組み合わせでデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。

UD FONT ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。